

平成29年度指定管理者評価表(平成30年度実施)

施設名	国崎クリーンセンター啓発施設
施設の設置目的	ごみ減量及びリサイクルに関する情報の発信並びに自然や環境問題について学習を通じ循環型社会の構築に寄与することを目的とする。
指定管理者	株式会社トータルメディア開発研究所
選定方法及び指定期間	選定方法:公募 指定期間:平成29年4月1日から平成34年3月31日まで
評価対象期間	平成29年4月1日から平成30年3月31日まで
指定管理委託料(29年度)	66,942千円

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者自己評価	所管課評価	評価協議会評価		
管理体制等に関する項目	基本的なサービスの提供	施設提供のための適正な人員配置	<ul style="list-style-type: none"> 環境啓発活動に根ざした地域連携に努め、第3期指定管理業務計画に則した適切な人員配置を行った。 適材適所により、ワークショップや各種啓発業務、地域連携の他、里山保全ボランティア育成、ごみ減量化へ向けた研究活動等による啓発活動に努めた。 経験値の高い非常勤を配置することにより、計画通りの業務を遂行すると共に、住民目線でのサービス提供に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務計画に則した適切な人員配置を行い、また、個々のキャリアを活かした配置となっていることを確認した。 正職員も非常勤職員も経験年数が長くなることで、役割分担を行いながら、安定的な事業等の実施が出来ている。 	B	<p>平成30年6月29日に評価協議会を開催し、指定管理者及び組合に対してヒアリングを実施した。ヒアリングの主な内容は次のとおり。</p> <p>【主な質疑】</p> <p>Q: 正職員6名が中心となり継続して事業を実施されているが、この活動量でオーバーワークになっていないか。 A: 目標を持って取り組んでいます。循環型社会形成に資するために、学校教育では学ぶことができないことをやっていく中で、数値目標もクリアしないといけません。また、人に来てもらうために「飽きさせないこと」、常に新鮮でスタッフも新しいことにチャレンジしたいという思いで取り組んでいます。いかに効率的に取り組む、合理的に成績を残しながら業務量を減らしていけるかについて、悩みでもあります。しかし、そこをクリアすることが企業努力と考えて取り組んでいます。</p> <p>Q: 現在、10年間の指定管理業務をされ、スタッフも年齢を重ねて負担があると思うが、人を増やすなどの対応はしないのか。 A: 今がベストメンバーであると考えており、今の人件費とスタッフワークで来ています。ただ、スタッフも年齢を重ねているため、第3期指定管理期間中で対策を検討する予定です。</p> <p>Q: 寒い時期での啓発施設の動きはどうなっているのか。暖かい時期であれば多くの方の利用があると思うが、寒い時期だと中々、利用者が来ることがしんどいと思う。出前講座での繋がりを活かして利用者が啓発施設に来られるような方法等は講じられているのか。 A: 利用者が少なくなる寒い時期でしか次年度計画の検討やデータの整理、予算の状況確認が出来ないので、利用者対応を行いながらもそうした内部的な作業もしています。また、スタッフ研修などもこの時期に実施しています。</p>	
		指揮命令系統の確立	<ul style="list-style-type: none"> 組織として指揮命令系統が確立されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織体制・指揮命令系統等を定め、確実な運用を行っている。 本社とも月2回の定例会の実施、業務支援など連携をしている。 本社の運営館の指定管理業務で得たノウハウなどを共有し、運営に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織体制、指揮命令系統に従い、運用出来ている。 		B
		職員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画書に則した職員研修が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年代層や利用目的の多様化が進む中、より一層の「丁寧さ」と「親切さ」を重視した接客対応をめざし、充実した研修会を実施している。今年度も地域在住のベテラン講師を招き、「コンプライアンス意識と環境問題」について、豊能町社会福祉協議会担当者も交えて「車椅子の使い方」について学んだ。 実務研修についてはOJTにより随時実施している。 全国の環境学習施設等と廃棄物資源循環学会の研究部会(ゆめほたるが事務局担当)が開催する研修会等を通して情報交換したり、川西市自然活動団体交流研究会等へ参加したり、広い視野で環境学習に関わる情報を取得し、良質な運営・啓発活動に活かしている。 法令理解、個人情報保護、メンタルヘルスなどについて、本社社員を招いての研修(情報)を実施している。 本年度は、家具製作技能士1級1名、里山保全に活用するドローン検定(1級1名・2級1名・3級3名)、こども環境管理士2級1名。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイド業務向上や車椅子利用者対応のため、接遇研修や車椅子の使い方を学ぶことで運営サービスの向上に取り組んでいる。 環境啓発に関する会議等に参加することで、住民意識の向上や環境教育の普及に向けた取組みを行うとともに、様々な団体との今後に繋がる交流を行っている。 各種資格の取得を通じ、スキルアップを図ることで、業務に活かしている。 研修等で得たものを、報告書や資料を通じて職員全体で情報共有し、その中で質疑応答も行いながら、業務に役立っている。 		A
		利用許可、案内等の対応と接遇	<ul style="list-style-type: none"> 利用許可、案内等が適切かつ迅速である。 業務や接遇について、多くの苦情を受けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設組合の規程に則した業務を遂行しており、業務内容に関しては、概ね良好である。 電話・WEB・FAXでの仮受付やフォローをしており、利用者の立場に立った適切な対応を行っている。 申請書類等については簿冊にて適切に整理保管している。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用許可や案内等を適切に対応している。 申請書類等を簿冊にて適切に整理・保管を実施していることを確認した。 		B
		苦情等への対応と報告	<ul style="list-style-type: none"> 苦情対応が適切になされている。 苦情について、記録・報告されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦情等発生と同時に施設組合へ報告すると共に、業務日報へ記載している。また、苦情等の発生時には適切な対応を行っている。 窓口、電話、電子メールなど、利用者から広く意見を受け入れる体制を整えている。 特段大きな苦情はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業後に受講者や講師から意見等をいただくことで、意見受入れ体制を継続している。 特にゆめほたるの業務や接遇、また、組合に対して苦情は特になかった。 		B
		利用者の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保対策を徹底している。 職員に指導徹底している。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアルを作成し職員全員に徹底している。 全職員が消防署の普通救命講習(AED研修)を受講している。 万一に備えて賠償責任保険に加入している。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアルに基づいた指導が行われていることを確認した。 組合が主催する普通救命講習を順番に受講していることを確認した。 		B
		緊急体制・マニュアル・研修の対応	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時に迅速に対応できるように、責任者、組織が整備されている。 緊急時に、組合に迅速に連絡・報告し、指示を受けるための連絡網ができています。 職員の対応マニュアルがあり、研修・訓練が定期的または必要に応じて実施されている。 実際に緊急事態が発生した際、適切に対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急対応ができるよう、安全管理マニュアル及び対応体制(非常時/緊急時の役割分担)、緊急連絡網を整備している。 常勤全職員が甲種防火管理者及び普通救命講習Ⅱクラスを修了している。基本は、施設組合の「不適合事象対応マニュアル」に則った対応を行い、定期訓練・安全講習に参加している。 6月ドクターヘリコプターの緊急着陸において、適切に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアルに基づいた指導が行われていることを確認し、緊急連絡網や体制が整備されていることを確認した。 6月17日(土)夕方(組合閉庁日)にハイキング中の方が足を骨折されたため、緊急救急事案としてドクターヘリコプターが多目的広場に着陸することとなったが、迅速・適切な対応をいただいた。 		A

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価				
管理体制等に関する項目	施設の管理	施設の点検・保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・日常点検・定期点検及び安全確認を適切に実施し、日報及び火元責任者自主点検表にて報告している。 ・点検結果は組合に報告している。 ・7/8制作工房内での講座において、煙感知発報に関してJFEより問い合わせがあったものの、軽微な発報との説明により、日報への記載および管理者への報告を怠った。以降、夕刻の相互確認、日直業務のダブルチェック体制を実施するなど、施設管理関係における注意と連絡・報告の徹底を実施している。 ・11/5の催事で管理棟1F侵入センサーが作動。侵入禁止表示にもかかわらず(※子どもなど)侵入の可能性が排除できないため、施設組合さまと協議の上、催事時はベルトパーテンションを設置し再発防止に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、適切な管理がされていることを確認した。 ・制作工房内での講座による煙感知発報については、以後、十分注意を払いながら実施に努めており、特に目立った問題は発生していない。 ・管理棟1F侵入センサーが作動した事案以後は、特に目立った問題は発生していない。 	B	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後を見据えた組織での人材育成が必要と考える。 ・管理体制については、きっちり実施できていると評価できる。今後も引き続き努力願いたい。 <p>以上、各評価観点にかかる両者の説明に対して、提出資料の精査及び質疑応答などを行い確認したところ、指定管理者の自己評価及び組合の所管課評価のとおりとし、総体的には評価指標「B」に該当すると判断する。</p>			
		個人情報保護	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者が管理する個人情報について、漏洩、紛失等の事故防止のため、管理体制を整えている。 ・指定管理者が管理する個人情報について目的外利用していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護に係る管理体制(キャビネット施設等)が整えられていることを確認した。 ・情報セキュリティポリシーが策定されていることを確認した。 ・不要となった個人情報書類等については、年数回溶融サービスを利用した廃棄処分を実施していることを確認した。 			B		
		文書管理	<ul style="list-style-type: none"> ・文書・帳簿類が適正に作成・管理されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書等文書・帳票類に関して、期日どおり作成しており、事務所内及び本社にて保管・管理している。 ・事務所内の書類については、種類別、年度別に簿冊管理している。 				B	
		備品管理	<ul style="list-style-type: none"> ・備品台帳が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備品台帳により、消耗品を除く備品管理をしている。 ・新規購入または廃棄に際しては随時台帳更新している。 ・経年劣化による更新等に関しては、施設組合と協議しながら進めている。 					B
		指定管理者が行う修繕	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者が行うべき修繕について、適正に実施されている。 ・修繕箇所について、随時、組合に報告されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本協定のとおり、管理施設・管理物品1件につき20万円未満の修繕(QA展示用液晶ディスプレイ補修等)について適切に修繕を行い、大きな修繕は随時、他は日報により報告している。 					
経営状況に関する項目	経営状況	経理事務の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・収支にかかる帳票類が整備されており、適正な経理処理が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月次で適切に処理しており、帳票類の内容を一覧化している。 	<p>指定管理者の経営状況に関する評価については、協議会内で行うには時間的制約があることから、専門部会を設けて評価を行った。6月22日に評価協議会委員(税理士)・所管課・指定管理者の三者にて会計評価部会を実施し、指定管理者の経営状況について評価を行った。概要は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者から平成29年度の収支金額の説明、会計処理方法の説明、支出の詳細に関する説明を順次受けて質疑応答をした。 (1)収入と支出の全体のバランスはとれており問題は無いと思われる。収入面は、講座講演会参加等の収入が計画を22.8%、雑収入は0.3%上回り、合計で計画を達成している。 支出面は旅費交通費等計画を上回った項目と、反面修繕費等計画を下回った項目がいくつかあり、それぞれの項目について説明を受けたが、支出全体では、計画を0.8%上回ったが問題無しと判断した。 (2)会計処理方法の変更について、平成29年度から、イベント・ワークショップ等から生じる収益金は「別途本社送金」する方法から「施設専用口座へ入金」する方法に変更されていることを確認した。 (3)実査は、①小口現金の支払い②請求書による支払い③注文書発行(外注)による支払い④施設利用料の収入⑤イベント等の収入について決められたルールに沿って処理されているかを確認した。特に、見積、発注、納品、請求の各書類の整合性、そのチェックの実施状況(検印)を確認した。結果全てルールに沿って適切に処理されていた。 (4)帳票類については、予算執行申請書、精算伝票、現金出納帳、見積書、注文請書納品伝票、施設使用許可書、使用料収納報告書、イベント実施報告書等の保存状況を確認した。以上の各書類は適切に管理、保管されていた。 (5)指摘事項として、イベント等の収入は、実施報告書に記載したうえ、その金額を責任者がチェックし検印した後に施設専用口座に入金する方が良いと思われる。 <p>以上の結果、平成29年度収支の内容とその処理の方法は適正と判断する。</p>				
		収支の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・収支決算書と収支計画書とに大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期の初年度でもあって、仕様要求に対する予算計画と実際との差が若干ある。ことに後方支援スタッフ(非常勤)の業務量が計画よりも30%ほど多く、同時に本社との往復旅費なども若干多めになった。 					
		販売売上の状況	<ul style="list-style-type: none"> A: 350万円以上 B: 250万円以上350万円未満 C: 150万円以上250万円未満 D: 150万円未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業収入合計は 惜しくも3,459,482円で350万円にあと一歩であった。循環型社会構築へむけて、楽しみながら継続できる様な内容で身近にある再利用素材の活用や、地域講師からのアイデアを活かした講座の実施等様々な工夫を施し、講座・ワークショップの参加や催事での物販等売り上げ向上へ向けて努力した。 					

評価：B

評価：B

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価	
運営事業等に関する項目 事業計画に基づく事業実施状況	利用者数	A: 3万5千人以上 B: 2万5千人以上3万5千人未満 C: 1万5千人以上2万5千人未満 D: 1万5千人未満	年間の総利用者数も、惜しくも34,873人で3万5千人にあと一步であった。それでもH28年度に続き3万4千人越えて、10月には累計利用者20万人を達成した。様々な創意工夫が実ったものと感謝し、さらなる地域住民の環境意識の高揚へ向けて進んでまいりたい。	・年々、総利用者数も増加しており、様々な創意工夫が行われている結果と考えられる。	B	【主な質疑】 Q: アンケートを取られているが、来場者の属性・ニーズなどはつかんでいるか。(どの地域から何%や何人とか、年齢構成など) A: 年齢を書きいただけない方が多いです。比較的60代などが多く感じます。フリーマーケットの出店者としては、30～50代が多いと思います。子ども向けのエコッキングや科学実験などアンケートを書いてもらいやすい機会に取っているのですが、こうした結果になっています。アンケート回答者では、40代の方が多く傾向です。 Q: 国崎クリーンセンター周辺の河川は全て猪名川水系なのか。また、そうであれば、1市3町の流域が一緒であれば環境に関する何か共通の取り組みができるのではないかと。 A: ほとんどが猪名川水系にあたります。また、猪名川流域ひめぼたるネットワークをこの上流域から尼崎市までの下流域を含めた中で、啓発施設のスタッフが事務局を担っています。ただ、水や生物多様性への幅を広げて今以上の活動は厳しいです。 Q: 能勢電鉄と協力して事業を展開されているが、メリットは何か。また、求められているものは何か。 A: お互いに地域を愛しながら、地域にとって大切なことは地域を活性化、良くしたいと考えて取り組んでいます。共に地域のために取り組む者として協力を行っています。 Q: 多目的広場は、年配の利用者があまりいないのか。グラウンドゴルフなどで使用してもらえないのか。 A: 能勢町のグループでグラウンドゴルフの利用が過去にありました。しかし、少年サッカーでも使用するのではデコボコが出来たりして、グラウンドゴルフはやりにくかったのかもしれない。 Q: ドローンはどういった関係で使われているのか。 A: 里山保全や里山林の現状把握と対策のため撮影を行っています。ナラ枯れや照葉樹林が発生している部分の確認、里山保全ボランティアが活動する際の効率的な指針のため定期的にポイントを決めて撮影しています。里山のエドヒガンが天然記念物であり、その現状把握や記録に残すため、人が少ない休館日に行っています。 Q: 里山保全技術者の養成をされているが、この管理や所属はどうなっているのか。また、費用面は。 A: 大本の「ゆめぼたるクラブ」の中で「里山保全クラブ」を立ち上げており、独自に活動しています。そのため、啓発施設側で統率している訳でもないが、組織の会議等には所長が会長も兼ねているため出席もしています。ただし、同じ目線で一緒に組織の中に入って取り組んでおり、また、ボランティアの方は地域の里山をよく知っておられる方が多く、自分達でどのようにすれば解決するかを知っておられ、補助金等をどのようにして受ければ良いかも知っておられるので、コスト面の心配もありません。指定管理料の中で、養成に向けた講演会やチェーンソーの整備などに支出しています。 Q: 小学生の利用者が今後、中学、高校、大学生になっても継続的に来られる仕組み作りが必要ではないか。 A: 構成市町の小学生・中学生、高校生を対象に平成30年度から環境読書感想文コンクールを実施するなどの取り組みを行っています。こうした機会を通じ、国崎クリーンセンターや啓発施設をより身近に知っていただくように努めています。
	ファミリーフリーマーケット参加者数(4回合計)	A: 6000人以上 B: 4000人以上6000人未満 C: 2000人以上4000人未満 D: 2000人未満	年間6,075人が参加された。年4回実施のファミリーフリーマーケットにおいては、森の泉1面での広報効果もあり、多くの方がご来館され、年を経る毎にリユースの輪が地域で大きくなっている。	・年間を通して、多くの参加者があり、地道な広報活動が実を結んでいると考えられる。	A	
	利用者満足度 ・スタッフの対応	A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	2017年度アンケートにおいて、97%をいただきました。アンケート結果は全員で供覧し、より良い施設運営を目指している。アンケートへのコメントは概ね好印象で、ファミリーフリーマーケットや観望会などの催事でのコメントが多く、お褒めの言葉を多くいただいている。	・施設利用者へのアンケートを通じて、「とてもよい」(73%)、「よい」(25%)の回答をいただいております。利用者には満足いただけている結果となっている。	A	
	利用者満足度 ・「施設見学や展示解説」、もしくは「講師やプログラム」の内容	A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	2017年度アンケートにおいて97%をいただきました。アンケート結果は全員で供覧し、より良い施設運営を目指している。アンケートへのコメントは概ね好印象で、科学実験や分解ワークショップでのコメントが多く、お褒めの言葉を多くいただいている。	・施設利用者へのアンケートを通じて、「とてもよい」(66%)、「よい」(31%)の回答をいただいております。利用者には満足いただけている結果となっている。	A	
	施設見学サポート業務		・毎日3回の定期見学ツアーを行う他、下見や視察への対応など、施設見学サポートを実施。利用者のニーズに応じた柔軟な対応をしている。 ・よりわかりやすい説明にむけて、情報の共有・更新をしており、職員全員が見学サポートを行うに必要な基本知識を有している。 ・ごみ減量や分別への協力など、わかりやすいガイドを行い、職員が自分事にとらえてもらえる様サポートした。Q&Aノートにお客様とのやりとりを記載、朝礼での報告などタイムリーに情報共有している。	・構成市町小学4年生は26校が見学に来られた。 ・Q&Aノートを作成することで、職員間での情報共有が図られて、各職員がガイド等含めたサービス向上に取り組んでいることを確認した。	B	
	団体対応業務		・学校、地域団体等からの予約受付及び見学サポートを適切に行う他、団体からの各種要望(里山学習、昼食場所、工作、滞在時間等)について柔軟な対応に努めている。 ・特別オーダーがあれば、施設組合様と協議した上、手選別室内見学等のスペシャルツアーを組み込み、匂いや音などを感じてもらえるガイドも行っている。	・構成市町小学4年生は28校中26校が見学に来られた。各利用学校の要望に合わせたカリキュラムの設定を行い、その中で選択肢の幅を広げる努力をされている。 ・豊能町からの要望でバックヤードツアーを継続して行っている。	B	
	環境情報センター管理業務	・事業計画書に掲げる各種事業の実施状況及び実施により得られた啓発効果 ・各種事業の利用促進にかかる改善点、工夫点	・環境学習ゲームなど、資料貸出業務を円滑に行った。 ・環境系図書資料、特に地域連携を重視した第3期のミッションを果たすため、地域資料(郷土史など)の充実を図るとともに、新刊コーナーを設けた。ごみ減量化や環境問題、そして生物多様性に関連した書籍の紹介などを実施、また蔵書検索をWebからできるようにシステムの改修準備を行うなど、利用者の利便性向上へ向け努力している。 ・地域企業、商工会、一庫公園、一庫ダム、知明湖キャンプ場及び黒川地域との連携、人と自然の博物館など教育研究機関とも連携し、啓発事業にかかる連携窓口として機能している。2017年度は地域の川西市立緑台中学校との連携による大型製作(舞台大道具)があった。 ・例年恒例の住友ゴム工業㈱の植樹維持活動(センター内植樹地)に協働した。 ・廃棄物資源循環学会の環境学習施設研究部会・事務局として、全国の環境学習施設の交流会や情報発信等ハブ的な役割を担っている。2017年度は東京工業大学における研究発表会にて、企画展示と環境フォーラムを実施した。また、同発表会において、ゆめぼたるにおける実践研究の発表も行った。 ・業界誌「月間廃棄物」や廃棄物資源循環学会誌へ寄稿し、全国から反響(視察申込)があった。	・平成28年度に引き続き環境学習施設研究部会の事務局として、取組みをされている。 ・蔵書検索システムの改修を行うことで、利用者の利便性向上につなげている。	B	
	講演会、講習会、研究会等開催業務		・里山保全セミナー・講演会「兎おいし かの山 ～里山の過去・現在・未来」、「猪名川上流域の里山林」などを実施。 ・古紙再生促進センターと協働での「紙はごみじゃない」等を実施し、概ね好評であった。 ・かえるステーションやベビー用品リユースコーナーが継続的に好評。 ・映画「0円キッチン」を猪名川町立図書館で上映し、地域連携で食品ロスの啓発活動を行った。	・かえるステーションやベビー用品リユースコーナーが継続的に利用が増加している。 ・平成28年度の川西市での「もったいない!」の上映に続き、平成29年度は猪名川町で「0円キッチン」の上映を行い、食品ロス啓発を行った。今後も構成市町を順番に回りながら啓発を行っていくことを確認した。	B	
リサイクル工房活用業務		・各工房に適したエコ講座(ワークショップ等)を実施し、広く地域の方にご利用いただいている。 ・火気使用講座に関しては、事前打ち合わせ等により内容を十分に把握し、換気や補助備品等の設置等の措置を施しトラブル防止に努めているが、7/8に里山珈琲講座における焙煎で煙感知・発報が生じた。焙煎においては、完全に煙感知への抑制が難しく、施設組合と対応について協議した結果、注意を怠らない形での当該講座継続を確認している。	・木工や和布リメイク、レザーリメイクなどは大変人気があり、安定して開催している。 ・講座での煙感知発報に対する注意喚起を図るとともに関係者への周知を徹底することとした。	B		

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価	
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	多目的広場活用及びフリーマ開催業務	<ul style="list-style-type: none"> ・春と秋の屋外フリーマーケットや里山まつりなど設置趣旨に沿った多目的広場の活用を広げている。 ・週末利用の少年スポーツ大会などは、主催者との事前打ち合わせを行い、乗り合わせでの来場やごみ持ち帰りなども含め、施設を安全に、環境に配慮してご利用いただくよう努めた。 ・年4回のファミリーフリーマーケットも定着し、集客数も開催毎に増えている。 ・地域企業との協働により昨年から継続して「天体観望会inくにさき～望遠鏡&廃材で三脚づくり～」を2回実施、春のエドヒガン林散策ガイドや小学生の里山学習として国崎の里山を活用した自然観察会、ゲンジボタル及びヒメボタル観察会を実施し大変好評を得た。 ・当施設の恵まれた自然環境を十分に活用すべく、創意工夫をこらした事業展開に努めている。 ・週末の悪天候による多目的広場利用キャンセルや一部のクラブ活動減少、講師都合による回数減などにより利用人数減となったものの、ドッグランの利用者増加や新たなサッカー団体の利用がはじまり利用回数が微増となった。 ・講座室、視聴覚室の利用については、研修や催事等で活用するなど、利用率向上に向けた努力と取り組みをしている。 ・ボランティアのゆめほたるクラブは、現在101名が登録されている(ボランティア保険加入数)。 ・ゆめほたるクラブ協賛・里山事業「第2期 里山保全技術者養成講座」で新たに里山保全ボランティア15名が育成され、第1期生を加え全28名で里山林維持管理事業へ協力した。 ・環境活動に意欲的な方々に対して、集いの場・交流の場を提供している。 ・施設運営に協力いただける「ゆめほたるエコサポーター」へ新たに2名の地域住民が登録された。 ・年間6回の編集作業を行う。着実に本紙の認知度が上昇し、来館者増加につながっている。 ・広報紙は1市3町の住民の皆様に情報提供を行う重要なツールであり、編集にあたっては、読者の立場に立ち、わかりやすい紙面構成・レイアウトを心掛け、好評を得ている。 ・65号(11/25発行)では、第一面に利用者20万人達成記念をとりあげ、ゆめほたるのアピールと利用促進に貢献した。 ・利用者は3万人台で近年は安定している。 ・3月の大型催事が無くなったが、見学利用者やドッグラン広場利用者の増加で安定した利用者数で推移している。 ・隣接する黒川地域を中心として開催する「黒川里山まつり」の実行委員として、広報関係を中心に連携協力を行った。 ・一庫ダムの試験放流(2018年5月)に対して、記念行事の企画提案を行い、能勢電と連携したハイキングが実施することが決定した。 ・妙見山「山の日フェスタ」、能勢町スマイルフェスタへ、エコアクション宣言や木工教室を出展。 ・キセラ川西のオープニング催事の大道具製作及びツアーガイドとして協力。 ・恒例の知明湖キャンプ場連携「さとひとたべるクックオフ」春を開催、秋は天候が悪く中止した。 ・いながわまつり、とよのまつり、のせでんレールウェイフェスティバル(春と秋2回)、いながわキッズフェスティバル、豊能町ふれあいのつどい、川西市キッズりぼん等へ、かえっこパザールの出前事業を実施。 ・兵庫県阪神北県民局の地域見本市へパネル展示を提供。 ・一庫ダム、知明湖キャンプ場とのドローンを利用した里山保全活動、及びドローン活用研究連携(川西市、県民局も参加)を行う。 ・12/13に国崎クリーンセンター里山保全委員会を開催し、学術経験者や里山保全専門家などから、国崎の里山林保全についてのアドバイスを得た。 ・里山保全活動へドローンを活用開始(成果をホール壁面やブログで紹介) ・里山事業「第2期 里山保全技術者養成講座」を開催(15名) ・年間計画に則り、里山ボランティアも交えて、里山林維持管理を行った。 ・市町とのごみ減量や分別の推進にかかる協議の実施 ・市町へのアドバイス、技術的支援 ・市町の要請による研修会、出前講座等の実施回数 ・コスト削減に向けた努力 ・収入増加に向けた努力 ・業務の内容・手法に対する改善努力 ・社会貢献に向けた取り組み、関係団体や地域等との連携を図る取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回のフリーマーケットは定着し、集客数も増加して安定的である。また、11/5開催の里山まつりは天候が晴れだったこともあり、併せて一庫ダムと連携したダム見学を引き続き実施したことで、こちらも安定的である。 ・エドヒガン林散策ガイドや野鳥観察会等は、安定して開催されている。 ・ゲンジボタル観察会は天候に恵まれ、ヒメボタル観察会は小雨の中で実施したが、安定的に参加者がおられる。 ・天候等の状況に左右されながらも、安定的な実施が出来ている。 ・管理棟にある講座室や視聴覚室の利用については、土日に管理棟へ入れないこともあり、貸出率が低い状態であるが、研修や催事等を通じた活用など利用率向上に向けた努力と取り組みをいただいている。 ・ゆめほたるクラブの登録者は毎年横ばい程度で安定的に推移している。 ・里山保全ボランティアが前年度13名に加え、15名が新たに加わり活動している。 ・分かりやすい紙面構成・レイアウトを心掛けることで、「森の泉」の認知度上昇に貢献いただいている。 ・広報編集に係るチェック体制を整えたことで、苦情等特に支障となる記載誤りはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者などのニーズ把握や呼び込みたい年齢層の方々のように呼び込むかを考える中で、データを定期的に取り入れた方が、単に来場者が多く来たから賑わっているという判断だけではない違った工夫が必要ではないか。 ・催事等で会場の都合上、駐車場の制限があることに対して、時間差等工夫を凝らして、大きな集客が可能となるアイデアが無いのかを再度検討することが必要ではないか。 ・里山保全ボランティアについて、今後NPO法人化を目指すことも検討されても良いと考える。また、自立をする場合には、啓発施設としてバックアップを促すことが望ましい。 ・里山保全について、組合と協力しながら学識経験者等の意見も参考に今後の取り組みを展開することが望ましい。 ・実務担当者会での組合や構成市町と指定管理者との関わり方が少し弱く感じる。構成市町と指定管理者との事業等実施に向けた協力体制について、継続的・中長期的なビジョンでの努力が必要ではないか。 ・昨年度からの課題である1市3町との連携について、将来ビジョンがほとんど実施困難と判断されているが、連携が難しいで終わりではなく、将来的にどのような目的や方向性を持って行けるかを目指すことが大切である。また、今後可能性のあるならば、一度に多くの市町と連携を図るのではなく1つの市町と中長期的に小さなことでも良いので少しずつ改善策を見出すことが望ましい。 ・市町が知らない団体などと啓発施設が繋がりのある場合もあり、そうした情報が上手く活用できれば、より市町それぞれの住民のために役立つのではないか。 ・組合や各市町担当課と指定管理者で5年後、10年後のビジョンをどのように描くかを考えることが望ましい。 ・市町との連携で、市町やその地域で活動されている団体とお試して啓発施設が何か事業に取り組んでみることが出来ないかを模索しても良いのではないか。 ・豊能町だけでなく、他市町でもごみ減量化等で活動されている団体で見学ツアーに参加してもらい、地域のごみの状況などを知ってもらう機会を作ることが望ましい。 	
		屋外観察会開催業務		・地域企業との協働により昨年から継続して「天体観望会inくにさき～望遠鏡&廃材で三脚づくり～」を2回実施、春のエドヒガン林散策ガイドや小学生の里山学習として国崎の里山を活用した自然観察会、ゲンジボタル及びヒメボタル観察会を実施し大変好評を得た。	・エドヒガン林散策ガイドや野鳥観察会等は、安定して開催されている。	・B
		貸館業務		・事業計画書に掲げる各種事業の実施状況及び実施により得られた啓発効果	・天候等の状況に左右されながらも、安定的な実施が出来ている。	・B
		ボランティア運営業務		・ボランティアのゆめほたるクラブは、現在101名が登録されている(ボランティア保険加入数)。	・ゆめほたるクラブの登録者は毎年横ばい程度で安定的に推移している。	・B
		「森の泉」編集業務		・年間6回の編集作業を行う。着実に本紙の認知度が上昇し、来館者増加につながっている。	・分かりやすい紙面構成・レイアウトを心掛けることで、「森の泉」の認知度上昇に貢献いただいている。	・B
		施設利用状況		・各貸室、多目的広場の利用状況(前年度対比)	・利用者は3万人台で近年は安定している。	・B
		地域活性化、地域貢献		・地域活性化、地域貢献のためのイベント等の実施	・隣接する黒川地域を中心として開催する「黒川里山まつり」の実行委員として、広報関係を中心に連携協力を行った。	・B
		里山林維持管理		・里山林整備構想計画に基づく事業協力	・12/13に国崎クリーンセンター里山保全委員会を開催し、学術経験者や里山保全専門家などから、国崎の里山林保全についてのアドバイスを得た。	・B
市町施策との連携、協働、支援	・市町とのごみ減量や分別の推進にかかる協議の実施	・一市三町の担当者連絡会(管理運営部会実務担当者会)へ出席し、市町の求める啓発活動に積極的に取り組んでいる。	・B			
その他改善努力	・コスト削減に向けた努力	・ワークショップの材料は廃材(ビン、間伐材等)を中心に活用し、事務用品等の消耗品は使い切るまで使用し、電気製品などは修繕(リペア)して再利用を心掛け、経費の節減に努めている。	・B			

評価:

<p style="text-align: center;">総合評価</p>	<p>本指定管理業務の趣旨及び目的は、単なる施設管理業務だけではなく、ごみ減量やリサイクル等の継続的な啓発活動を通して、循環型社会の構築に寄与することにある。指定管理者の平成29年度業務について、協定書及び事業計画に基づき、適正に業務が実施されているか、要求水準以上の啓発効果が上げられているか、協議会及び専門部会の計2回の協議の場をもって確認を行った。管理体制面については、「適正な人員配置」や「職員研修の実施」、「個人情報保護」など計12項目にわたる評価観点に基づき、提出資料の精査及び質疑応答を通じて確認を行ったところ、指定管理者の自己評価及び所管課評価のとおりであり、適正に業務が実施されていると判断した。</p> <p>計3項目の経営状況については、専門部会を通じて提出資料の精査及び質疑応答による確認を行い、一部指摘事項もあるが全体的には収支の内容とその処理方法が適正に実施されていると判断した。</p> <p>計19項目の運営事業については、各啓発事業実施状況やその成果について、指定管理者によるプレゼンテーション及びヒアリング等を通して確認を行ったところ、住民の環境意識を高めるための創意工夫された各啓発事業の実施、施設内外における地域との交流も含めた積極的な事業展開、地域の各種団体や教育機関との連携によるネットワークの構築やその拡大など、本指定管理業務の趣旨及び目的である循環型社会の構築に向けた効果的な啓発活動を継続的に実施されていると評価した。</p> <p>【今後の啓発事業の展開にかかる提言】 平成21年の開館以降、ごみの減量や分別、リサイクル等を推進する循環型社会形成に根差したイベントや講座、ワークショップの開催を通じて、啓発施設への利用者数増加に様々な工夫をされ、限られた予算や人材の中で大変努力をされていると感じる。</p> <p>今後も引き続き、構成市町におけるごみ減量や分別推進、環境意識の高揚に貢献し、啓発活動の効果を相乗的に高めてもらいたい。また、構成市町との繋がりを通じて、啓発事業の更なる周知等や意見交換、情報共有を図り、双方にとってより実りのある活動の継続的な展開を期待する。</p> <p>そのためにも、指定管理者と組合や構成市町が5年後、10年後の将来ビジョンをどのように考え、連携をしていくのか等、中・長期的な取り組みが必要である。</p> <p>また、講座等における次世代の講師の育成や発掘、指定管理者の中でも今後を見据えた人材育成が継続的に必要になると考えられ、どのように実践されていくのか展開を期待したい。</p>
<p style="text-align: center;">評価： B</p>	

<p style="text-align: center;">附帯意見</p>	<p>組合と構成市町担当で組織されている実務担当者会において、指定管理者や更には地域の関係団体との今後の関わり方や協力方法について、検討・工夫した会議構成を目指されることが望ましい。</p>
--	---

<p style="text-align: center;">附帯意見の対応</p>	<p>過去より、地域団体と連携しながら各種催事等を展開してきましたが、今後さらに、組合や構成市町との実務担当者会の中で、地域の活動団体との連携や中・長期的なビジョンについて、協議しながらより良い会議の場となるよう努めてまいります。</p>
---	---

《評価指標》

《個別項目評価》

- A : 協定書、事業計画書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績(効果)があり、優れた管理・運営が行われている。
- B : 概ね協定書、事業計画書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績(効果)があり、適切な管理・運営が行われている。
- C : 一部、改善・工夫を要する事項が見受けられたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D : 協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

《管理体制評価》 《経営状況評価》 《運営事業評価》

- A : 個別項目評価が全てB以上であり、かつAが過半数である。
- B : 個別項目評価の8割以上がB以上である。
- C : 個別項目評価に複数のCが含まれる。
- D : 個別項目評価にDが1つでも含まれる。

《総合評価》

- A : 総括評価にCが含まれず、かつAが2つ以上ある。
- B : 総括評価が全てB以上である。
- C : 総括評価にCが1つでも含まれる。
- D : 総括評価にDが1つでも含まれる。